

# 東京大学債 インパクトレポート2025

2025年12月

UTokyo **COMPASS** 2.0 

多様性の海へ：対話が創造する未来

Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue

- 東京大学は、学知を生みだし、つなぎ、深める拠点として、問いを立てる基礎力をはぐくみ、卓越性と包摂性を実現するため、自律的で創造的な大学活動のための経営力の確立を目指す。東京大学債は、その理念の下で東京大学が進めるUTokyo Compassに資する事業やFSI (Future Society Initiative) 事業を加速させるものであり、SDGsとの親和性が特徴

## 充当事業

- UTokyo Compass 推進に資する事業、FSI事業

## 発行体格付

- AA+ (2019年9月19日取得：株式会社格付情報センター(R&I))【2025年12月3日更新】
- AAA (2020年7月31日取得：株式会社日本格付研究所(JCR))【2025年11月27日更新】

## 発行実績

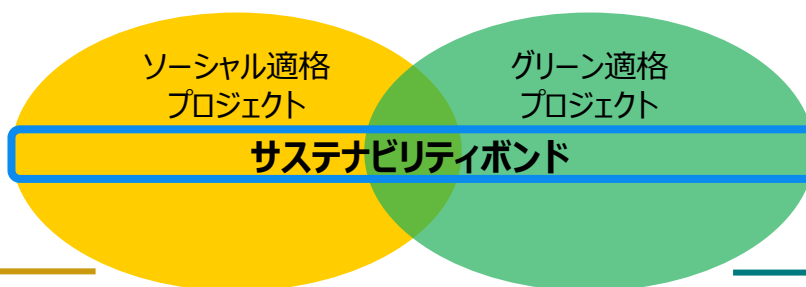
	発行額	発行日	年限	ESGラベル
第1回東京大学FSI債	200億円	2020年10月16日	40年	ソーシャルボンド
第2回東京大学FSI債	100億円	2021年12月22日	40年	ソーシャルボンド
第3回UTokyo Compass債	110億円	2024年12月23日	40年	サステナビリティボンド
第4回UTokyo Compass債	10億円	2025年6月20日	20年	サステナビリティボンド
第5回UTokyo Compass債	75億円		30年	
第6回UTokyo Compass債	90億円		40年	

## ソーシャルボンド

- ソーシャルボンドは、社会的課題に取り組むプロジェクトの資金を調達するために発行される債券
- 本学では、債券発行に関してソーシャルボンド・フレームワークを定め、株式会社日本格付研究所(JCR)より2020年9月3日にソーシャルボンド・フレームワーク評価を取得【2021年11月9日更新】
- 第1、2回東京大学債券（東京大学FSI債）は、ソーシャルボンドとして発行
- 詳細はこちら→ [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-info/social\\_bond.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-info/social_bond.html)

## サステナビリティボンド

- サステナビリティボンドは、全額がグリーンプロジェクトおよびソーシャルプロジェクトに充てられる資金を調達するために発行される債券
- 本学では、債券発行に関してサステナビリティボンド・フレームワークを定め、株式会社格付情報センター(R&I)より2024年11月19日にサステナビリティボンド・フレームワークのセカンドオピニオンを取得【2025年9月3日更新】
- 第3～6回東京大学債券（UTokyo Compass債）は、サステナビリティボンドとして発行
- 詳細はこちら→ [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-info/sustainability\\_bond.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-info/sustainability_bond.html)



### ソープシャル性のポイント

- 2024年の「国立大学法人法施行令の一部を改正する政令」で新設された同施行令第八条第四号に該当する事業
- 「UTokyo Compass推進会議」で社会課題の解決を目指す事業として特定された基盤設備の更新、最先端研究施設・設備整備への充当を予定
- SBP(Social Bond Principles)におけるプロジェクト分類は、**必要不可欠なサービスへのアクセス**を想定

### グリーン性のポイント

- **環境認証**を取得もしくは取得予定の建物の建設・取得(付随する設備を含む)、または再エネ・省エネ設備の導入、センシング・制御システムの導入・更新等
- 「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」「サーキュラーエコノミー」を取組の柱とするGXを推進する上で、明確な環境改善効果をもたらすプロジェクトを適格クライテリアに基づき選定
- GBP(Green Bond Principles)におけるプロジェクト分類は、**エネルギー効率、グリーンビルディング、再生可能エネルギー**を想定

- 2021年9月、学知を生みだし、つなぎ、深める拠点として、問いを立てる基礎力をはぐくみ、卓越性と包摂性を実現するため、東京大学が目指す理念と基本方針を示す「UTokyo Compass」を公表。2024年5月、気候変動や国際紛争、飢餓、貧困、感染症など地球規模の問題のみならず、未曾有の困難や分断の顕在化など、課題が次々生まれるような時代の変化に対応し、「UTokyo Compass 2.0」へとアップデート

## UTokyo Compassの基本理念



## 学知を生みだし、つなぎ、深め、卓越性と包摂性を実現

- 学術での卓越を実現するための、真理への探究心と学問の自由に根ざす研究
- 地球的な視野、高い倫理、粘り強い実践力、問いを立てる力を育む教育
- 多様な人間が集まり、課題の発見と共有と解決に取り組む場としての大学
- 地球規模の課題の解決へ貢献し、世界の公共を担うために創造的に自らの実践をデザイン
- インクルーシブで自由なより良い未来社会の創造を目指す

理念の実現に向けた3つの視点



### Perspective 1

**知**  
をきわめる

- 真理を探究、多様な学知を創出
- 公共性へ奉仕、透明性の確保
- 知の接続機能を持つ拠点、文理の垣根を超えた連携
- 好奇心やひらめきを駆動力に、対話を基礎に



### Perspective 2

**人**  
をはぐくむ

- 未来を築く卓越した人材を輩出
- 共感形成の能力を身につける教育
- 開かれたネットワークの中でしなやかな対話力を
- 学生との対話や学生の参加を促進



### Perspective 3

**場**  
をつくる

- 多声性を活力とする場に、対話で包摂
- 構成員の多様性を重視、インクルーシブキャンパスを実現
- 自ら起点となって社会との架け橋を創る
- 公共的な存在意義や機能への信頼と支持



## 自律的で創造的な大学活動のための 経営力の確立

- 新たな時代の大学という法人の自律性・創造性のあり方を検討
- 国から付託された従来の役割から踏み出すための、財務・人事・制度などにとどまらない、学問の裾野を広げていくために必要な不断の改革や進化
- 大学の多様な教育研究活動と社会からの支持・支援を広げる「公共を担う組織体」としての成長モデルの構築

- 「UTokyo Compass 2.0」では、経営力確立と3つの視点(Perspective)に関する目標を設定。具体的な行動計画の推進により、達成を目指す



## 経営力の確立

1. 「自律的で創造的な大学モデル」の構築
2. 持続可能な組織体としての経営戦略の創出と大学の機能拡張
3. 大学が果たす役割についての支持と共感の増進



## 知をきわめる

4. 地球規模の課題解決への取組
5. 多様な学術の振興
6. 卓越した学知の構築
7. 産学協創による価値創造
8. 責任ある研究



## 人をはぐくむ

9. 包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ教育
10. 国際感覚をはぐくむ教育
11. 学部教育：専門性に加えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成
12. 大学院教育：高い専門性と実践力を備え次世代の課題に取り組む人材の育成
13. 若手研究者の育成
14. 高度な専門性と創造性を有する職員の育成
15. 大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育の実施

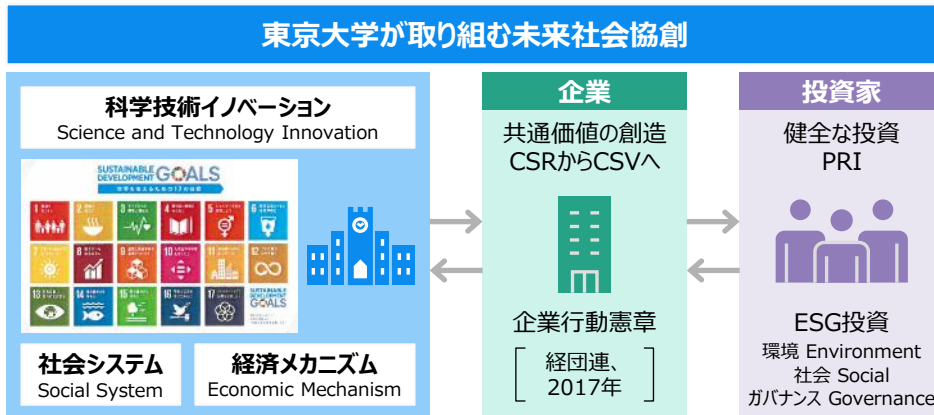


## 場をつくる

16. 安心して活動でき世界の誰もが来たくなるキャンパス
17. 教育研究活動の支援
18. サイバー空間に広がるキャンパス
19. 社会への場の広がり
20. 国際的な場の広がり

## 未来社会協創推進本部（FSI） ※2024年4月、UTokyo Compass推進会議（UCI）へ改組

- 2017年7月、総長を本部長とする「未来社会協創（FSI：Future Society Initiative）推進本部」を設置
- その目的は、大学の使命である教育と研究に加えて、複雑化する社会課題の解決を新たなミッションと認識し、文理を超えた「知」を駆使して、より良い未来社会の構築に向けた協創を効果的に推進することで、東京大学が社会変革を駆動すること
- FSI事業が目指す方向性は、国連が2030年に向けて採択したSDGs（持続可能な開発目標）の理念と合致。SDGsに貢献する様々な研究教育プロジェクトをFSI本部が司令塔として取り纏め、分野の壁を越えて、自然な相乗効果が見込めるプロジェクト間の協働を進めることを目指す



### 未来社会協創の具体例（JR東日本との産学協創協定締結）

100年後の地球を見据えてより良い暮らし・豊かな生命環境の実現を目指す「100年先の心ゆたかなLIFE」という共通理念のもと、プラネタリーヘルスをテーマとして、多様な社会課題の解決に向け相互に連携・協力する。

- 「TAKANAWA GATEWAY CITY」の賛助企業とのマッチング及び共同研究・新規事業の振興に向けた検討
- 工学、情報理工学、医学、農学、薬学、AIなど分野横断でプラネタリーヘルスに資するイノベーションを創出する「東京大学 GATEWAY Campus」の設立及び運営
- 「TAKANAWA GATEWAY CITY」をフィールドとした実証実験及びAI等を活用した街のデータ取得・活用などの具現化に向けたサービス・分析手法検討及びビジネス創造施設との連携サービスの検討



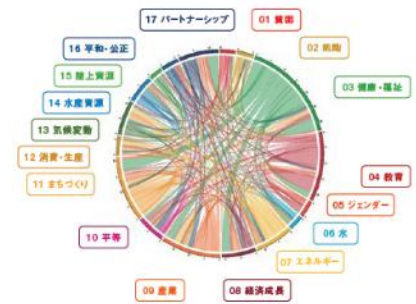
画像提供：JR東日本

「東京大学 GATEWAY Campus」  
(THE LINKPILLAR 1 SOUTH 9階)

### 主な取組

- FSI推進本部では、SDGsに貢献する研究プロジェクトを登録
- 2025年10月1日現在、登録数は197プロジェクトとなる
- プロジェクトにはそれぞれ、17の持続可能な開発目標（SDGs）からメイン目標として研究者が選ぶ一つの目標があり、同時に一以上の他の目標がサブ目標として設定されている

### SDGs登録プロジェクト



### 主な取組

- FSI事業の取組を支えるための基金として設立
- 基金に寄せられた寄附は、インクルーシブなより良い未来社会を協創するために重要であると東京大学が総合的に判断するプロジェクトに活用

### 未来社会協創基金（FSI基金）



## 東京大学FSI債（ソーシャルボンド）：第1・2回

- 赤字は昨年度のレポーティングから更新があった事項
- 第2回債の未充当であった12億円について、「ダイバーシティ&インクルージョン拠点等の整備」へ追加充当（2025年9月）

## UTokyo Compass債（サステナビリティボンド）：第3～6回

- 2024年12月に110億円（第3回債）、2025年6月に175億円（第4～6回債）の計285億円を調達

適格事業	ソーシャル/ グリーン	充当額 合計	回号別内訳						
			第1回		第2回		第3～6回		
① ウィズコロナ、ポストコロナ社会に適合した施設への改修等	ソーシャル	93億円	93億円	46.5%					
② 土地の取得等	ソーシャル	27億円	4億円	2.0%	23億円	23.0%			
③ ハイパーカミオカンデ	ソーシャル	200億円	85億円	42.5%			115億円	40.4%	
④ アカマ天文台	ソーシャル	18億円	18億円	9.0%					
⑤ ダイバーシティ&インクルージョン拠点等の整備	ソーシャル	72億円			47億円	47.0%	25億円	8.8%	
⑥ 海洋生物研究教育拠点構想	ソーシャル	20億円			20億円	20.0%			
⑦ GX・DXの推進等によるキャンパス環境の整備	ソーシャル	10億円			10億円	10.0%			
⑧ グリーントランスフォーメーション（GX）の推進	グリーン	48億円					48億円	16.8%	
⑨ デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進	ソーシャル	46.6億円					46.6億円	16.4%	
⑩ 教育研究に専念できる環境の整備	ソーシャル	15.3億円					15.3億円	5.4%	
		<b>未充当残高</b>	<b>35.1億円</b>	<b>0億円</b>	<b>0%</b>	<b>0億円</b>	<b>0%</b>	<b>35.1億円</b>	<b>12.2%</b>
		<b>合計</b>	<b>585億円</b>	<b>200億円</b>	<b>100%</b>	<b>100億円</b>	<b>100%</b>	<b>285億円</b>	<b>100%</b>

# インパクト・レポーティング：Project① ウィズコロナ、ポストコロナ社会に適合した施設への改修等

93億円

- 東京大学はネットワーク環境等の整備やキャンパスのサイバー化を進め、ウィズコロナ、ポストコロナ社会に適合した施設を整備します

## ウィズコロナ、ポストコロナ社会に適合した施設の整備／改修

- フィジカル工学インフラの整備
  - デジタル革新を引き起こす工学分野における研究・教育・組織体制を新たに構築することで工学と異分野の知識融合を進め、孤立や社会の分断を生まないインクルーシブ社会の実現を先導するためのインフラ整備
  - 老朽施設の大規模改修、老朽インフラ設備更新 等
    - 「情報基盤センターで実施する全学対応のICT環境整備及び国際ナショナルロッジのICT環境整備」
    - コロナ対策に伴う換気（機械、自然）・空調設備更新を含む
      - IBM東大ラボのための改修・整備
      - 工学部、農学部、薬学部、新領域、情報基盤、生産研、宇宙線研、物性研、大海研、定量研、附属図書館、駒場1号館の換気設備整備、課外活動施設について整備を実施



Quantum Hardware Test Center  
東京大学浅野キャンパスに5-Qubitの量子コンピューターと関連設備を設置  
周辺デバイス等に関して産学共同研究を推進

## インパクト・レポーティング（2025年11月時点）

### アウトプット指標

設置・整備した施設	理学部3号館101号室 他
設置した設備	ICT環境 他



ICT環境整備  
寮の自室でオンライン授業が受講可能に



Quantum Hardware Test Center

### アウトカム指標

- ✓ 設置される施設・設備の概要

- ICT環境整備
- ハードウェアテストセンターの設置  
(Quantum Hardware Test Center)

### インパクト指標

- ✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



### 【社会還元想定事例】

- GXに資する地域との協創
- キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献
- 地域課題への取組

27億円

- 東京大学は新たな土地を取得し、リアルな交流の場の価値を高める環境整備など、キャンパス整備を促進します

### 土地の取得等

#### 【柏キャンパス北東側】

- 柏キャンパス北東側の未取得地部分を取得。取得した土地を整備し、柏FUSIONフィールドとしてグラウンド2面（人工芝、天然芝）、半屋外練習場、クラブハウス等の施設が完成
- 柏FUSIONフィールドでは、独自に設計開発したカメラシステム40台を設置、グラウンド1面の全体をモニターすることで、選手全員の運動を4次元（空間と時間）再構成してデジタル化、分析し、トレーニングに生かすという世界に類を見ない研究プロジェクトを推進



#### 【駒場Ⅲキャンパス】

- 駒場ロッジは東京大学で研究・教育に従事する留学生のための宿泊施設。駒場Ⅱキャンパスに接する立地にあるものの、これまで借地であった
- FSI債の土地取得により、駒場Ⅲキャンパスとした
- 本学所有地となったことで、老朽化した建物の改築整備等を含めた施設活用が可能となった



### インパクト・レポーティング（2025年11月時点）

#### アウトプット指標

柏キャンパス東側未取得地	取得済
駒場Ⅲキャンパス未取得地	取得済

#### アウトカム指標

✓ 当該土地に新たに建設される施設について

- 柏FUSIONフィールド
- 土地の有効活用によるインターナショナルロッジの改築

#### インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



#### 【柏FUSIONフィールドの社会還元想定事例】

- 新たな心身コンディショニング管理方法の構築
- 新しい高齢者見守り住宅等の開発
- 新たなリハビリテーションシステムの構築
- 現役世代労働者の新たな健康管理法の構築

#### 【インターナショナルロッジの社会還元想定事例】

- 多様性に富んだ背景をもつ者同士が共に生活することで、包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ
- 国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成
- キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献

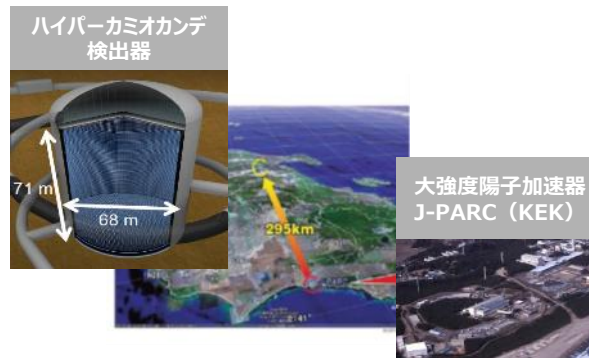
# インパクト・レポート : Project③ ハイパーカミオカンデ

- ハイパーカミオカンデ計画は、世界約20か国が協力して次世代のニュートリノの研究、さらに陽子の崩壊を探す、大型の研究プロジェクトです

200億円

## ハイパーカミオカンデ計画 (2028年観測開始予定)

- ニュートリノは宇宙で最も数の多い物質素粒子でありながら、未だその性質には謎が多く、素粒子と宇宙を理解する鍵と考えられている
- 既存のスーパーカミオカンデの約8倍の有効質量19万トン（総質量26万トン）の大型先端検出器（ハイパーカミオカンデ）を建設し、既存のJ-PARC大強度陽子加速器の増強と組み合わせてニュートリノ研究や関連研究を行い、素粒子と宇宙に対する知見を大きく広げる
- 米国のニュートリノ計画（DUNE）は2017年着工済みであるため、本計画を着実に遅滞なく推進する必要がある
- 2025年に本体空洞掘削を完了済。2027年11月までに水槽・架構・PMT取付・純水システムの工事を経て検出器の完成予定



## 主要な研究目的

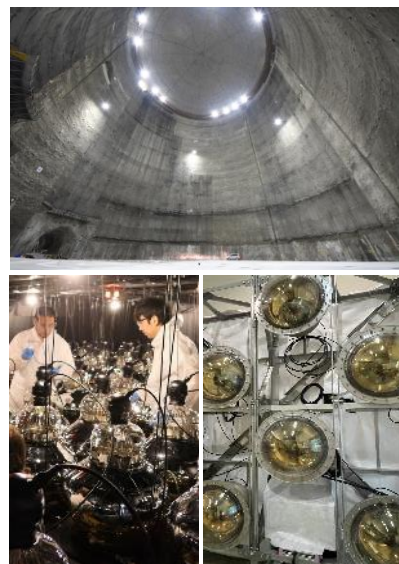
- J-PARCからのニュートリノ・反ニュートリノを観測し、ニュートリノ振動の違い（CP対称性の破れ）を検証
- 陽子崩壊の探索
- 超新星爆発に伴う大量のニュートリノの観測 など

## インパクト・レポート (2025年11月時点)

### アウトプット指標

#### ハイパーカミオカンデの建設進捗 【2028年観測スタート予定】

～2021.3	地盤調査
～2021.3	坑口ヤード造成・整備
2020.10 ～2026.9	光電子増倍管（PMT）製作開始 これまで15,000本超納入（右写真参照） （2026年度までに16,400本製作予定）
～2022.5	アクセストンネル掘削
～2025.7	空洞掘削（右写真参照）
～2027.11	水槽・架構・PMT取付・純水システム
2027.11～	検出器へ注水開始
2028	観測スタート



### アウトカム指標

#### 国際共同研究の拡大

- 国際共同研究グループ
- 23か国、100研究機関  
650名が参加  
（海外約75%、計画開始から300名増）



#### ハイパーカミオカンデ関連の論文数

#### ハイパーカミオカンデの観測時間

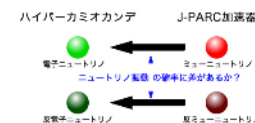
### インパクト指標

#### 知識集約型社会に貢献

以下研究により、東京大学の国際的存在感を高め、大学を起点とする知識集約型社会に貢献

#### ニュートリノ振動の違い（CP対称性の破れ）を検証

⇒ 宇宙の物質の起源に迫る



#### 陽子崩壊の探索

⇒ 大統一理論の検証

物質の根源と宇宙生成時の謎の解明

※完了部分は灰色文字、現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

# インパクト・レポート : Project④ アタカマ天文台

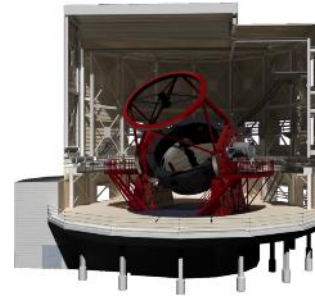
- 東京大学アタカマ天文台（TAO）計画は、主に「銀河宇宙の起源」「惑星物質の起源」を解き明かすプロジェクトです

18億円

## 東京大学アタカマ天文台（TAO）計画（2026年運用開始予定）

- 世界最高標高に設置する最新鋭の口径6.5mの光赤外線望遠鏡TAOを用いて大規模な観測を含めた全国共同利用研究を実施
  - 新たに開く赤外線域の大気の窓を通じた観測を中心に、天文学・惑星科学・宇宙物理学等の研究を推進、人類の知フロンティアを押し広げる
  - 最先端技術開発等も継続的に実施。人材育成に貢献、次世代リーダーを育成
- 世界第一級の大口径6.5mを有する光赤外線望遠鏡を赤外透過率の極めて高い高地へ建設することで、可視から近赤外にかけての切れ目ないスペクトルの取得と波長30ミクロン以上の赤外線領域において地上から初めての本格観測を可能にする
  - これらの特長によって銀河形成・暗黒エネルギー・惑星形成など天体物理学における未解決の重要問題に解答を出す
- 2024年4月には山頂施設の完成式典を挙げる。2026年には科学観測を開始する予定

## 光赤外線望遠鏡TAO



## 期待される効果



### 巨大ブラックホール誕生の謎の解明

例：宇宙最初期の巨大ブラックホールを世界で初めて発見



### 惑星誕生の謎の解明

例：惑星系円盤に残されたジャイアントインパクトの発見

## インパクト・レポート（2025年11月時点）

### アウトプット指標

アタカマ天文台の建設進捗

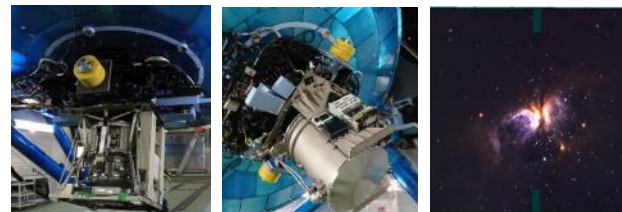
建設中 進捗度97%
---------------



標高5640mで建設が進む東京大学アタカマ天文台

### アウトカム指標

TAO計画に関与する研究者数、及び学生数	71人
TAOに係る論文数	111本



主力観測装置2台はすばる望遠鏡にて試験観測完了

### インパクト指標

#### 知識集約型社会に貢献

以下研究により、東京大学の国際的存在感を高め、大学を起点とする知識集約型社会に貢献

- ✓ 「銀河宇宙の起源」についての研究結果
- ✓ 「惑星物質の起源」についての研究結果

※画像提供：東京大学TAOプロジェクト

# インパクト・レポーティング : Project⑤ ダイバーシティ&インクルージョン拠点等の整備

- 東京大学は学生第二食堂他周辺を再整備し、魅力あるダイバーシティ&インクルーシブキャンパスの実現を目指します

72億円

## ダイバーシティ&インクルージョン拠点等の整備

- ダイバーシティ&インクルージョン棟（D&I棟）A棟・B棟の建設
  - 多様な構成員との対話、交流、相談、学修支援等という活動を通して、その成果を学内や社会に還元する場にもなり、東京大学の新たな価値の創出、さらにはイノベーションの創出を図ることができる拠点を整備する
  - 住宅地に近接した立地を生かし、文京区や地域住民から要望がある地域へ開くキャンパスの新たな出入口を設け、地域連携の強化、まちの活性化を図るためのスペースを新たに整備する



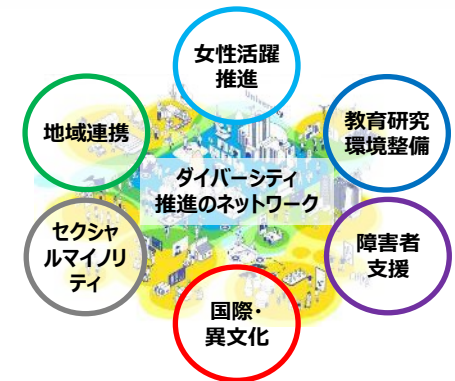
A棟イメージ図



B棟イメージ図



地域へ開くキャンパスの新たな出入口



ダイバーシティ&インクルーシブキャンパスを実現するための6つの視点

## インパクト・レポーティング（2025年11月時点）

### アウトプット指標

D&I棟A棟の建設進捗		既存建物解体済み
～2026.1	埋蔵文化財調査中	
2026.2～	着工予定	
2027.3	完成予定	
D&I棟B棟の建設進捗		既存建物解体済み
～2024.11	埋蔵文化財調査済み	
2025.4～	着工（建設中）	
2027.3	完成予定	

### アウトカム指標

- ✓ 学内保育等を通じた女性研究者支援の強化
- ✓ グローバル教育センターを中心とした、多様な国際教育活動の推進
- ✓ 地域へ開く新たな出入口、スペースの整備による地域連携の強化
- ✓ 特別支援学校との協力による、障害者雇用の推進
- ✓ バリアフリーの推進による、障害のある学生・教職員への支援の強化
- ✓ ZEB Readyの建物建設によるエネルギー消費量の削減

### インパクト指標

- ✓ SDGsへの貢献、拠点等整備による社会還元



#### 【社会還元想定事例】

- 多様性に富んだ背景をもつ者同士が交流することで、包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ
- キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献
- 地域課題への取組

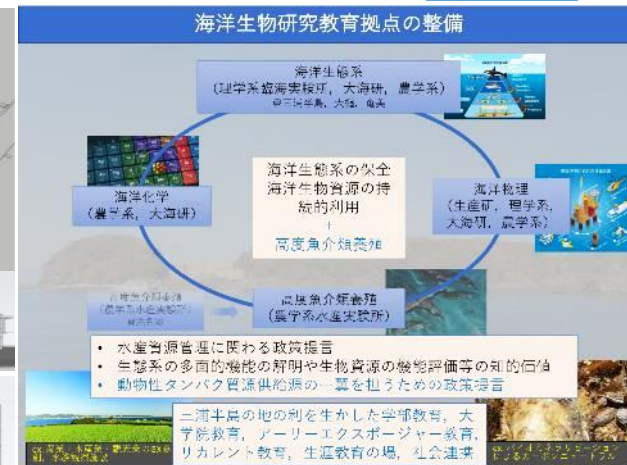
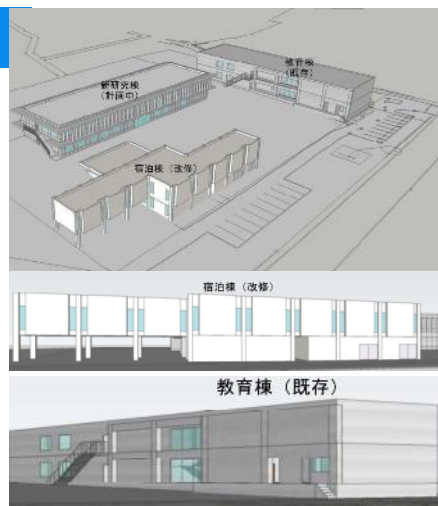
# インパクト・レポート：Project⑥ 海洋生物研究教育拠点構想

20億円

- 東京大学は未来社会づくりの中心となる国際的かつ卓越した研究教育基盤を構築します

## 海洋生物研究教育拠点の整備計画（2028年度運用開始予定）

- 「海洋生物」をキーワードとした新たな海洋生物研究・教育を加速する神奈川県三浦市三崎町に、研究教育のための拠点を構築する
- 海洋生物研究教育拠点の整備は、持続的養殖・海洋生態系の理解・海洋生物資源管理等、海洋関連科学の発展に寄与することを目的としている
- 農学生命科学研究科附属水産実験所・理学系研究科附属三崎臨海実験所・大気海洋研究所・生産技術研究所など学内外機関との連携強化を図る
- 現在、1976年に竣工した宿泊棟の全面改修を計画している。この宿泊棟は外部にひび割れが多くみられ、内部には断熱材が施工されていない等の問題がある。既存建物を活かしつつ、改修費用を抑えてニーズに合った施設にする（宿泊室を増やしてプライバシーに配慮、居室の断熱性能を向上させるため複層サッシに改修、エントランスにスロープを新設してバリアフリー化など）



## インパクト・レポート（2025年11月時点）

### アウトプット指標

海洋生物研究教育拠点 移転スケジュール	
～2023.9	学内審議等
～2024.3	設計等準備期間
～2024.10	建設整備期間（宿泊施設の改修工事）
～2026.12	建設整備期間 （研究棟、飼育施設の整備）
2027.1～ 2028.3	移転作業等
2028.4～	運用スタート

### アウトカム指標

研究
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態発生的研究の展開</li> <li>・三浦真珠プロジェクトを活用した環境保全と地方創成</li> <li>・亜寒帯から温帯、亜熱帯生態系までの総理解</li> <li>・未利用資源の有効利用</li> <li>・バイオミネラリゼーション、ブルーカーボン造成による脱炭素</li> </ul>
教育
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野を超えて活躍できる人材の育成</li> <li>・地域連携による次世代人材の育成</li> <li>・全国的な共同研究の受入</li> <li>・教養学部、他大学体験型のプログラム</li> </ul>

### インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元

4 質の高い教育を  
みんなに

9 質実と国内市場の  
振興をつくらう

12 つくる責任  
つかう責任

14 海の豊かさを  
まもろう

【社会還元想定事例】

- ・ 漁業および農業従事者や周辺地域との連携による地方創生
  - 自然災害の影響を受けにくい養殖技術及び優良品種の開発等
- ・ 海洋教育・学術成果の発信
  - アーリーエクスポージャー及び生涯教育の場の形成等

※完了部分は灰色文字、現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

# インパクト・レポート : Project ⑦ GX・DXの推進等によるキャンパス環境の整備

10億円

● 東京大学はGXやDX等に資する施設・整備への投資により、世界の誰もが来たくなる大学にふさわしいキャンパス環境を整備します

## GX・DXの推進等によるキャンパス環境の整備

### 【GX】 ● TSCP促進

東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト（TSCP）は、2008年の発足以来、低炭素社会の実現を目指し、CO<sub>2</sub>排出量削減を最優先課題として、省エネ対策（空調設備の高効率化、照明機器のLED化など）を進めている

#### ● 太陽光発電設備設置

創エネの導入として、2023～2024年度にかけて、本郷・駒場Ⅰ・駒場Ⅱ・白金台・柏・柏Ⅱの各キャンパスの屋上に太陽光発電設備を設置した

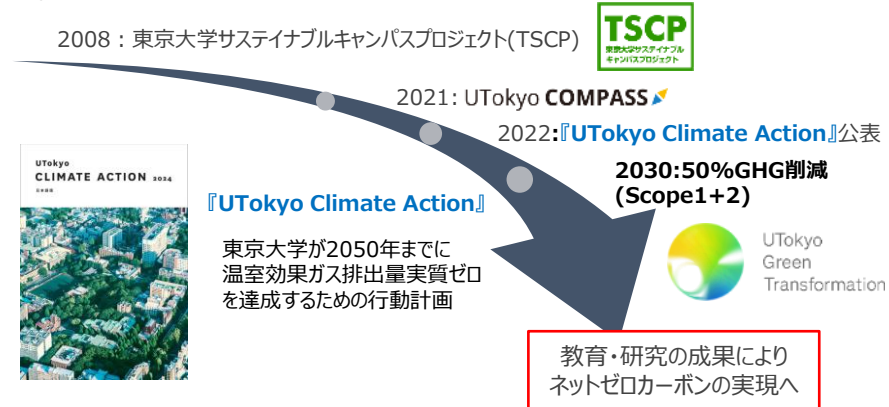
#### ● GX戦略推進体制強化

2025年4月、GX戦略推進センターを設立し、TSCPチームの企画立案部門を統合。全学的GX戦略を機動的に推進する体制を構築した

### 【DX】 ● 地震研究所の情報システム更新

情報システムのクラウド化やオンライン授業等の教育研究の需要に対応したシステムへ更新した

### 【東京大学のサステナビリティの取組】



## インパクト・レポート (2025年4月時点)

### アウトプット指標

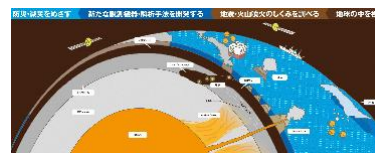
太陽光発電設備を設置した施設	44棟
太陽電池モジュール容量	約2,900kW
地震研NW整備	整備済

### アウトカム指標

- ✓ 各種省エネ対策や太陽光発電設備設置による低炭素キャンパスの整備
- ✓ 地震火山観測研究計画参画機関数



各キャンパス太陽光発電設備設置



地震火山研究

### インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



### 【社会還元想定事例】

- 都市型大規模キャンパスにおける創エネ推進
- 温室効果ガス排出削減による気候変動に向けた社会貢献
- 地震研究成果・知見の発信

# インパクト・レポート : Project ⑧ グリーントランスフォーメーション (GX) の推進

グリーン適格  
プロジェクト

UTokyo  
COMPASS



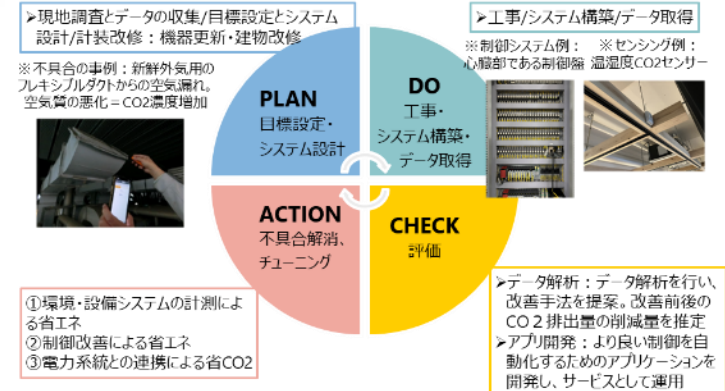
- 東京大学はあらゆるステークホルダーと共に環境負荷が小さいサステナブルなキャンパスを目指します

48億円

## キャンパスGX推進に向けた次世代型空間・情報インフラ構築

- ビル・カーボン・マネジメント (BCM) は、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた持続可能なエネルギー利用を実現する包括的な取り組みである。電力消費や温湿度、風量などを高密度に計測し、建物の状態をデジタルツインとして再現する。さらに、情報基盤システムとして建物OS (号館OS) を構築し、AIを活用したデータ駆動型運用を実現することで、空調・照明の無駄を排除し、将来予測に基づく最適化を行う。研究室や実験室ではプライバシーに配慮しつつ使用状況をデータ化し、PDCAサイクルにより継続的な改善を図る。これにより、建物全体で約30%の省エネ・省CO<sub>2</sub>を達成し、快適な教育研究環境を提供する
- この取り組みはGX推進に向けた次世代型空間・情報インフラ構築の中核であり、2025年4月より工学部2号館を皮切りに、大学全体のCO<sub>2</sub>排出量の約57%を占める本郷キャンパスで、排出量の約70%を占める上位30棟を対象に本格的に開始した
- 得られた知見や技術は地域社会や全国の大学・自治体へ展開し、GX推進と持続可能な社会の実現に貢献する

### PDCAサイクル



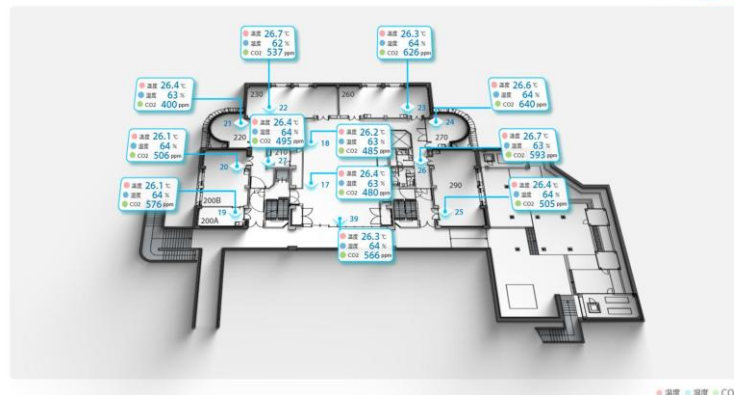
## インパクト・レポート (2025年11月時点)

### アウトプット指標

センシング・制御システムの改修	現在進行中 (目標: 30棟)
情報基盤システム (号館・キャンパスOS) の構築	現在進行中 (目標: 30棟 + キャンパス全体)

### アウトカム指標

エネルギー使用量の削減量	30% (推計値)
CO <sub>2</sub> 排出削減量	30% (推計値)
ランニングコスト減 + 東京都排出量取引費用減	30%+ (推計値)



空調・換気設備のクラウド監視システム (工10号館2F)

### インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



【社会還元想定事例】

- 東京大学キャンパスのカーボンニュートラル達成 (2050年目標)
- GXモデルキャンパスとしての他大学・自治体への波及効果

# インパクト・レポート：Project⑨ デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

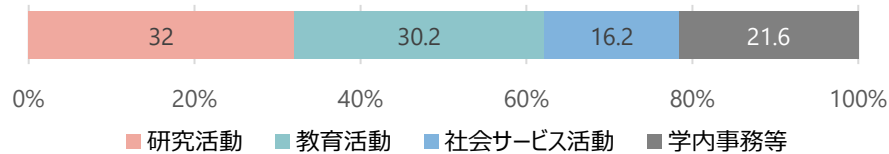
- UTokyo Compassに掲げる「自律的で創造的な大学モデルの構築」に必要な基盤設備を更新し、蓄積されるデータを他システムも含めた様々なデータと組み合わせることでデータドリブンな経営を確立し、研究インテリジェンスを進めます

46.6億円

## 大学が抱える課題：研究に専念する時間の確保

- 大学の教員は、本来であれば自身の研究活動および未来を担う学生の教育活動が本業であるものの、実態としては学内事務作業に1/5程度の時間を奪われてしまっているのが実情。教員が研究に専念する時間を確保できることは、より一層の、研究力を強め、国際競争力強化につながる

### 職務活動時間割合（教授）



出典：文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」

## 教育研究活動支援システムの更新等

- 本学の教育研究活動の基盤となる、予算管理、外部資金管理、契約・購買・経費・謝金管理、出納・資金運用管理、資産管理、決算、財務分析・レポート全般を支援するシステムを更新。教育研究活動を進めるため、研究者が自身の研究プロジェクトを日々管理するためにも使用
- システムに搭載予定のECサイトを活用することにより、時間や場所、デバイスを選ばず研究に必要な資材調達を可能とし、また、調達にかかる会計データをサプライヤーと財務会計システム間で自動連携することで、調達に伴う事務手続きを大幅に削減し、教員の教育、研究に費やす時間を確保
- システムのデータと学内に存在する人事や研究、学務等の基幹システムのデータを収集し組み合わせることにより人件費分析、研究にかかるコスト分析、学生に対するサービス向上に向けた投資判断など、多面的な経営判断に活用できるデータを提供することが可能

## インパクト・レポート（2025年11月時点）

### アウトプット指標

新財務会計システムの開発	設計中
2025.1～	設計
2025.6～	開発・性能テスト
2026.7～	受入テスト（トレーニング等）・移行予定
2026.12～	新システム試行稼働予定
2027.4	新システム本稼働

※完了部分は灰色文字、現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

### アウトカム指標

- ✓ 教員の事務作業時間の削減率
- ✓ 学内システム間の連携数
- ✓ 調達業務の処理時間短縮
- ✓ 経営判断に資するデータの提供件数
- ✓ 教育・研究活動の満足度

### インパクト指標

- ✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



### 【社会還元想定事例】

- 研究力向上および社会的インパクトの高い研究成果の創出
- 透明性の向上による説明責任の強化

# インパクト・レポート : Project<sup>10</sup> 教育研究に専念できる環境の整備

- UTokyo Compassの推進を加速化するため、汎用性の高い先端的な施設・設備を開発・整備して、世界トップレベルの教育研究を支える環境を構築します ※下記は主な事業

15.3億円

## 教育研究基盤の強化

### 【柏Ⅱキャンパス治験薬GMP製造教育施設環境整備】

- 国際高等研究所新世代感染症センター(UTOPIA)において、柏Ⅱキャンパスに建設された治験薬GMP製造教育施設に、治験薬製造分野とGMP教育分野の2組織を設置し、治験薬GMP製造、製剤評価および実地での教育(オンザジョブトレーニング)のための施設を整備
- アカデミアにおける治験薬製造とオンザジョブトレーニングを含むGMP教育体制の整備を可能にし、学内外の関連機関との連携により全国規模でワクチンを含むバイオ製剤の開発を加速させ、対外的にも東京大学の社会福祉に対する貢献を発信することが期待出来る



### 【東京大学GATEWAY Campus 整備事業】

- JR東日本との100年間の産学協創協定に基づき、高輪ゲートウェイシティ内に開設される新キャンパス
- 人・街・地球の健康を統合的に考える「プラネタリーヘルス」をテーマに、都市OSやデータ基盤、モビリティ、商業施設などの都市インフラを実験場として、東京大学の先端知を活用し、地球規模の社会課題の解決に取り組む拠点



## インパクト・レポート (2025年10月時点)

### アウトプット指標

治験薬製造体制の構築	設置フロアをGMP基準に整備予定
GMP教育体制の構築	教育カリキュラム、講義室の整備、OJT機器等の導入に向け準備中
プラネタリーヘルス研究拠点	東京大学GATEWAY Campus開設

### アウトカム指標

- ✓ 分野融合によるワクチン開発の推進
- ✓ 創薬開発におけるアカデミア・ベンチャーシーズ実用化
- ✓ GMP教育レベルの底上げ
- ✓ 人・街・地球に優しい未来の暮らしを創出
- ✓ 企業等との協創創出

### インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



### 【UTOPIAの社会還元想定事例】

- 日本発のワクチン開発支援による国内外の公衆衛生への貢献
- 治験薬製造技術の高度化による国内医薬品産業の競争力強化

### 【GATEWAY Campusの社会還元想定事例】

- 都市課題の解決への貢献
- 研究成果を医療・福祉・環境政策に還元
- 共同研究・新規事業の振興

## お問い合わせ先

**国立大学法人東京大学**  
CFOオフィス財務戦略ユニット

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3-1

TEL : 070-1515-3200

FAX : 03-5841-2107

e-mail : [cfo-fs.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:cfo-fs.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)

<https://www.u-tokyo.ac.jp>

